2020 年 8 月

2020 年 10 月 2 日発行

NPO 法人 わっか

月次報告書 22

だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままにすごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない
社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、
まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。
大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、
子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、
さらには、地域社会においても、
その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。
また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り
仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

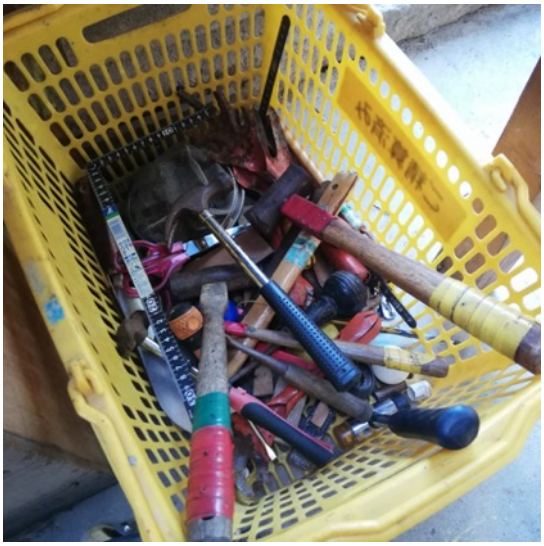
「わっか」は、2014 年 3 月から活動をおこなっています。
活動当初は、月に 1 回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。
遊び場に来てくださる方の声に応えたくて 2015 年 7 月から、古民家の開放をはじめました。
毎週月曜日の放課後、日曜日は月に 1 、 2 回開けることから始めた古民家開放は
わっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。

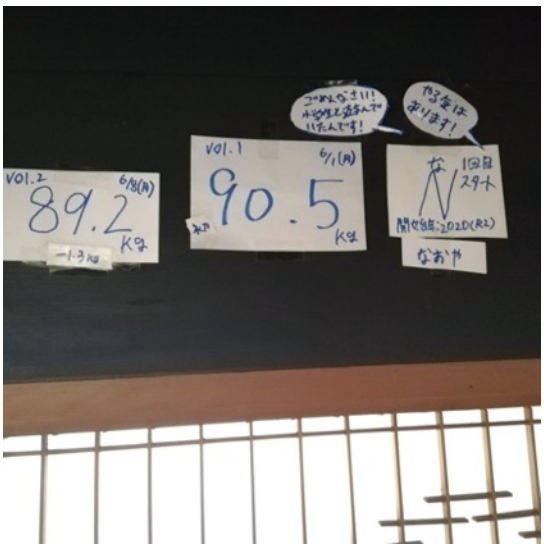
第二十二号
目次

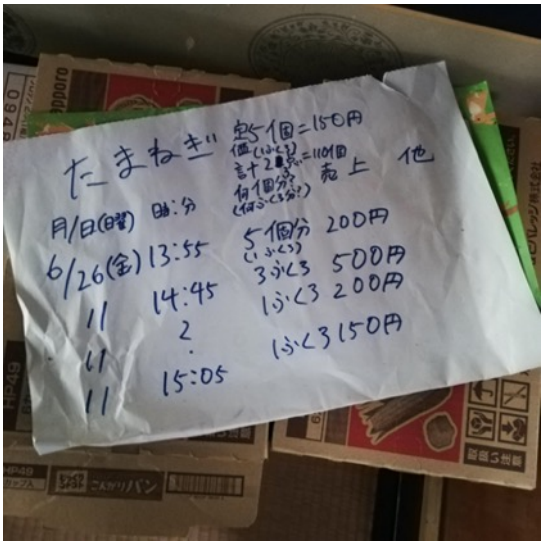
こどもたちがわっかにのこしたもの　4
放課後児童クラブ　さかっこクラブ　6
真紀さんの日記　第5回　7
少女から女性へ　わっかのごはんから　9
事業報告
月ようわっか　10
平日わっか　11
かめラボ　12
日ようわっか　13
8月にいただいたご寄付　14
編集後記　15
マンスリーサポーターのご案内　16

子どもたちが、わっかにのこしたもの　1

STYLIGHT
HOME LIGHTS




vol.2
6/28(月)
89.2
Kg
vol.1
6/1(月)
90.5
Kg
なおや


たまねぎ
売上
他
月/日(曜)
6/26(金) 13:55
14:45
15:05
5個分 200円
3ふくろ 500円
1ふくろ 200円
1ふくろ 150円

放課後児童クラブ
さかっこクラブ

さかっこクラブは、学童保育として運営している。しかし、その中で、ボク達は、それ以上のことをしていると思っている。いろんな環境と自分達の人柄というかスタンスというか、それらが重なって、古民家のわっかで子ども達と関わるように、いろんな子ども達と関わることができている。その理由の一つとして大きいのは、さかっこクラブで受け入れている学区の小学校がグラウンド開放をしていること。学校が放課後に地域に向けて開放されているのだ。だから、だれでも来て遊んでいいし、出入りも自由なのだ。昨今の社会情勢からすれば、そんな学校はすごく珍しい。ボクらからすれば、とってもありがたい。おかげで、クラブに所属していない子ども達と触れ合うことができるし、クラブをいろんな事情でやめた子にも会うことができる。

さかっこクラブは、のびとあすかが中心になって運営している。ボクらは、自身の人間性なのか、知らない子ども達にもよく絡まれる。そう、まさに絡まれる。まるで、よく知った仲であったかのように声をかけてきてくれる。それは、グラウンドだけではなく登下校時にもある。そうやって、関係性が少しずつ育まれていく。もちろん、全ての子ども達がボク達に声をかけてくれるわけではないが、ちょっとずつ、彼らとつながっていくことができている。

最近、ボクらは、それでもう“わっか”なんじゃないかと思っている。誰もがふらっと来ることができる場というのも大切。でも、そこには必ず人がいて、その人がどういう雰囲気でいるのかとか、どんなスタンスで、どんな接し方をしてくるのかで場の雰囲気は大きく変わってくる。だから、そこにいる人がとっても大切だと思う。その人次第で、場が居場所になり得るのか、そうじゃないのか決まってくると思う。だとすれば、わっかはボクらがいて“わっか”なのだから、ボクらがいれば“わっか”なんじゃないかと考えるようになった。

さかっこクラブという学童であろうが、屋根のない野天のグラウンドであろうが、道すがらであろうが、ボク達がいれば“わっか”なんだって、すごく思うようになって、居場所づくりって場所じゃないんだって思うようになった。居場所かどうかは、その人、その子が決めるのだけど、少なくとも、自分達がやる場っていうのは、場所とか、建物とか物理的な環境はさして重要ではないんだなと。

どこにいても、ボクらがいれば“わっか”で、大切なのは、ボクらがどんな思いで、どんな雰囲気で、その場にいるかが重要で、それ次第で、どんな場も居場所に変わり得るんじゃないかと思う。だから、最近は、場所にこだわらなくなっている。なーんか、身一つでできる、この感じがシンプルでいいなーと思って、すごく気楽で、でも、すごく温かみがあって、自分達自身の負担も少ないなと思う。関わり方に正解とかないと思うし、ボクらは、このスタイルが合っている。だから、あえて言えば、どこでも“わっか”なんだ、ボクらにとって。ただし、ボクらが、そういう気分でいるときじゃないとダメだけど。

さかっこクラブ主任（わっか共同代表）　柳生のび

真紀さんの日記　第５回

徒然なるままに書いている散文的なこのコーナーも、今回で５回目。現在時刻は２１：３３。場所は東京都豊島区の池袋の雑踏で iPhone を使いながら書いている。いま、あなたはどこにいますか？

今日は学校へ行ったんだけどね、学校へ行くたびに思うんだ。そこで作られる「仲間づくり」や、それに対する「仲間はずし」という言葉の使われかたに違和感を。そうしたものって、目標をもって取り組んだり、強制されるものじゃないと思うんだ。学校で強制される「仲間づくり」、そこに自由はあるのかい？と。

そもそも、生きていくっていうことは、単純ではなくって、家、わっか、学童、塾、公園、ひとりでいるとき、誰かといるときなど、いろいろな場があり、それぞれでいろいろな顔があって、それらは多角的で、多層的であるという前提が忘れられているのではないだろうか。僕にも封建的、男根的社会と言われる場で先頭に立つ時の顔もあるし、リベラルとされる場でサポートにまわるときの顔もある。もちろん、専門職としての顔も。そうしたいろいろな価値観の中を、いろいろな顔を使いながら生きているんだ。

佐藤真紀

僕はわっかとは別の場所では、10年以上ひきこもりや不登校をベースとした子ども・若者に関わり続けている。そして別の場では、いろいろな人から生活困窮や精神保健福祉、LGBTQといわれるセクシャルマイノリティの相談を受けているんだ。今日はそうしたいろいろな場面から、少し切り取って話をしてみようと思う。

長いあいだ自宅でじっとしていると、もぞもぞと動き出したくなる時がくる。そうして自宅の扉からで始めた人が外とつながるときには、自分の中にも、自分の外にもきっかけがある。そして、外と手をつなぐには、ポケットの中でギュッと握りしめていた拳をそっと開き、目の前にあるその手をとまどいながらも取り、自分のかたくなだった心を少しずつ開放していく作業が必要だったりする。

心が少しずつ開かれていくと、それまで話せなかった言葉をとつとつと語ってくれる人もいる。語ることによって、その手をさらに誰かとつないで、より広い外とつながっていく人もいるんだ。語ることは自分だけじゃなくって、それを聞く人にも影響を与えること怖いけれど、語ることで世界が広がる。ただ、そうやってつないだ手の強さも決してみんな同じではないし、一定とは限らない。

信頼している人だから、同性だから、同じ年齢だから、家族だから、友達だからといって、過信もできないし、引く手が強ければ相手が転ぶこともあるし、一方的にぶら下がれば離れてしまうようなこともある。そんなバランスが大切と言われるけれど、それって初めからわからないよね。

だから、確かめる。どこまで引いていいのか、ぶら下がっていいのか、少しずつ、少しずつ。そして、誰と手をつなぐかも自分自身で決めることだ。誰でもいいわけじゃないし、誰かだけになる必要もない。もぞもぞと動き出したときにはわからないけれど、少しずつ広がっていく場って、自分で選んだ誰かと繋がっていくことでもあるんだ。それはとても大切な作業。だから、これを読んでくれていると若い人にも、押したり、引いたり、ぶら下がったり、いろいろな人と確かめて自分を形づくってみてほしいと思う。

そして・・・話は変わりますが、もう一つ伝えたいことがある。

いま、あなたがどんな状況にいるか、僕は知りません。ただ、もしこの声が届いているということは、それだけでつながっているんだ。たとえ自覚がなくとも、月一回のこうした通信でも、僕とあなたのつながりになると思っています。

でも、いろいろな人と手をにぎり、つながっても、人は本質的にひとりなのかもしれません。はじめに、人には多様な場と顔があることを話しましたよね。手をつなげても、つながっても、すべてを共有できるわけではありません。少しさみしい考えかもしれませんが、だからいろいろな人と出会って、出会った人との「思い出」があるのかもしれません。

思い出は大切なものです。このCOVID-19であらゆるリアルな出会いが絶たれようとしました。それは、僕も同じで、いまも東京の街中でひとりぽつんと立ってこの文章を書いています。理想はそばにいてくれる誰かですが、今はそうしたことも簡単にはかないません。だから、こうしてひとりでいるときにも、誰かと過ごした思い出は僕を支えてくれます。

みなさんとは、こうして紙面でお会いするのが精いっぱいかもしれないけど、また来月会いましょう。

僕は、ここにいます。
キミがそこにいるように。
では、また来月。

佐藤真紀さんのプロフィール　@19hz（Twitter）
現場から現代社会を思考する/OfficeJUN/大学院生/NE→フリーのソーシャルワーカー/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元学校の中の人

少女から女性へ　わっかのごはんから

場を開いていると
色んな子に出逢います。

地方のこんな片田舎でも
ニュースで取り上げられるような
育ちであったり
環境を強いられているような
色んな子に出会います。

最近、出会う子で重なるのが
女性への体の変化について
理解していない子が多い事
女の子から女の人へと
変化していく事に
対応ができず、
取り敢えず、
有り合わせ的な対策をしているのを
ちょくちょく見ます。

あすか

今まで、教わった事がない
知らない
と、口をそろえて言います

学校の保健体育などで習うかと思うのですが
他人事としてしか聞いていなかったり
授業すら受けていなかったり
知識として残っていないのが
ほとんどです

本当に信頼関係を築いていないと
話せないような事ばかりなので

少しずつ、見守りながら
自分の身を守る大切さを
少しずつ、話しながら
気長に自分の心と体の変化に
向き合ってくれればと
願うばかりです

居場所づくり事業

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

月ようわっか　毎週月よう日 15:30 ～ 20:00

子ども 20 名（ 14 名）おとな 8 名（ 0 名）

（）内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

3,10 日熱中症対策のため、おやすみ

17 日　子ども 11 名 （ 7 名 ）　大人 3 名 （ 0 名 ）

メニュー：　冷やしぶっかけうどん

24 日　子ども 9 名 （ 7 名 ）　大人 5 名 （ 0 名 ）

メニュー：　ごはん、豆腐とわかめの味噌汁、こんにゃくとさつま揚げ煮、ジャーマンポテト、ピーマンとちくわ炒め

31 日　熱中症対策のため、おやすみ

居場所づくり事業

平日わっか　毎週火～金曜日 13:00 ～ 17:00

子ども 24 名　おとな 6 名

平日の昼間に開けています。

すると、誰も来ない日もあるんだけど、なんだか人がたくさん集う日もある。

なんだろうな、不思議だなって思います。

誰も来ない日も、たくさんくる日もどちらも、どちらかがあるからであって

なんというかなあ、一続きだなって思うんです。

ただ開けていること、開け続けているからこそだなって思います。

（だいのすけ）

居場所づくり事業

かめラボ　金曜日 17:30 ～ 19:30

この時間に開けると 17 時までとは違う人たちが集います。

ここで時間をすごすこと、出会うために私たちは、活動にいろんな窓口のようなものを

作っています。それは、曜日であったり、時間であったり。

こうやって出会ってご飯を食べることは、この時間だからできることかもしれないです。

そして、やっぱりご飯を食べるのはいいなって思います。

長い時間こうやって机を囲んで過ごせます。

まあ、たいした話もしていませんが、こうやって囲って過ごすのがいいんです。

また、こうやって一緒に食べたいなあ。

（だいのすけ）

居場所づくり事業

日ようわっか　熱中症対策のためおやすみ

これまでの様子でお楽しみください

左上：熱い日々が続く中、古民家の中でも、ここは涼しいのかな。

右上：レゴの人形をのせて、戦っているのさ（toio という道具で）

左下：フォートナイトかな？いい姿勢だこと。

右下：ご飯を作る前に手を洗っているところ。

８月に頂いたご寄付

物品でのご寄付　3 名

お菓子（１名）
服など（1 名）
ラーメン（１名）

マンスリーサポーター　20 名

（今月あらたに２名の方がサポートくださいました）

大渓麻紀子、福地真路、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀
佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代
三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、（敬称略）

都度ご寄付　2 名

わっかにきてくださった方からご寄付いただきました。

助成・補助団体　10 団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社
真如苑、社会福祉法人　米原市社会福祉協議会、
公益財団法人 信頼資本財団、一般社団法人 全国食支援活動協力会
公益財団法人 さわやか福祉財団、社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
（敬称略　2020.9.25 現在）

編集後記

先月の月次報告書をつくっているときは
暑くて古民家も、開けられない日々だったのが
嘘のように涼しくなりました。

開けっぱなした窓から
ひやって心地いい風が吹き抜けるように
なってきました。

子どもたちが思いっきり遊んでも
熱中症の心配もなく眺めていられます。

いま、わっかは毎日古民家をあけています。
そこで、くる人たちとなんでもない時間を
過ごしています。

わっかはただ古民家をあけているだけです。
それには意味があると思っています。
それは今の社会にある生産性とかといった
価値観では測れないものです。

どんな時間をすごしているのか、少しでも
知っていただきたいと願い
月次報告書を作成しています。

（だいのすけ）

古民家を毎日あけるのも、

こうやって報告書を作成できるのも

すべて、みなさまの寄付による支えによってです。

みなさまの寄付でこれからも活動を支えてください。

一緒に、いまの社会に『生産性で評価されない』場所をつくっていきましょう！

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521−0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059（代表）
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca
Youtube	アカウント名　NPO 法人わっか振角大祐